

私たちの歴史  
SHOIN点描



**大阪で初の4年制女子大学への憧れ**

終戦からわずか4年後の1949年、私立の女子専門学校から4年制大学へ昇格したのは全国で約20校、大阪では本学と医系大学の2つでした。本学への入学志願者は、大阪を中心に、近畿・東海・北陸さらには九州からも集まり、憧れの女子大学としてのスタートを切りました。以後、樟蔭学園は、新制樟蔭中学校、新制樟蔭高等学校、附属幼稚園と共に、短期大学部・大学院をも擁する総合学園として発展してきました。新しい時代に向けて「高い知性と豊かな情操を兼ね備えた女性としての人格形成」を一貫して実践する教育の場としての歩みを始め、現在も次代を見つめて歩み続けています。

**1949 大阪樟蔭女子大学の誕生**

# くすのき



樟蔭学園報 Vol.153

大阪樟蔭女子大学・大阪樟蔭女子大学短期大学部・樟蔭高等学校・樟蔭中学校・大阪樟蔭女子大学附属幼稚園



2007 新年のごあいさつ ..... 1

「樟蔭時代の思い出」を募集します ..... 17

2007年、樟蔭学園は創立90周年を迎え、  
これからも建学の志を社会に大きく広げていきます。



レポート●公開講座[土をデザインする—左官技術と意匠—]久住章 ..... 3

SHOIN LABO●[近代日本の身装文化と美しいひと]高橋晴子 ..... 5

こもれびの窓●フリーアナウンサー 打上順子 ..... 7

CLIP●[IHクッキングのアドバイス]高等学校 尾崎幸子 ..... 9

NEWS●教職員と学生等の活動報告 ..... 10

INFORMATION●参加イベントのお知らせ ..... 14

we are Now●各校行事など ..... 15

SHOIN点描●1949年大阪樟蔭女子大学の誕生 ..... 19

# 新年の ごあいさつ

新年明けましておめでとうございます。平成19年の新年を皆様健やかにお迎えになられたことと存じます。

皆様の暖かいご支援のもとに樟蔭学園は、創立90年を迎えるに至りました。

思えば本学園が大正、昭和、平成の激動する時代の変遷の中を発展しつつ女子総合学園として着実な歩みを続けてまいりましたことは、時代に先駆けた優れた教育理念のもとで、創設の志を受け継いだ歴代の学園関係各位の尽力と、学園の理念に変わらぬ理解と支持を与えて頂いた保護者、同窓生の方々のご協力によるものと深く感銘する次第であります。

しかしながら、現実は伝統の上に安住が許されない転換期に直面しております。就学人口の減少、共学志向の進展など、女子学園を取り巻く環境は、益々厳しさを増しております。

そもそも私学の使命は時代を問わず、独自の建学の精神のもと特色ある校風を確立し、以て社会に役立つ有為の人材育成にあります。その使命遂行に一層の努力を傾注することが転換期克服の途であると考えます。

元来私学はそれぞれに創設の経緯があり歴史も異なります。この期に際して、建学の精神の具現化、教育の質の向上等をはかる上で、全私学共通で効果が期待し得るような画一的な方策は見出し難く、従って各校が自らの伝統と現実をふまえ、いわば手作りで今後の充実、向上に向かって我が道を拓かねばならない時ではないでしょうか。

今後も、建学の精神のもと、特色ある女子総合学園として、教育研究に益々の向上を目指して取り組んでまいりますので、学園への変わらぬご支援をお願い申し上げます。



学校法人樟蔭学園 理事長  
**森 真太郎**

明けましておめでとうございます

大阪樟蔭女子大学 学長

**森田 洋司**



今年、本学は創立90周年を迎えます。創立以来、本学は、時代の先端を担い豊かに生きる女性を社会へと送り出す努力を重ねてまいりました。

幸い良き学生と教職員に恵まれ、先人の遺産を大切にしながらも、その上に新しい試みを次々と積み上げてまいりました。

創立90周年にあたる2007年度は、昨今のめまぐるしく変貌する時代と社会を、しなやかに生き抜く力を蓄えた学生を育てるために「ライフプランニング学科」を新設。既存のそれぞれの学科でも専攻やコースを新設・改組します。

しかし、高い専門的知識と技術だけでは仕事や家庭や社会で活躍し、充実した人生を過ごせません。そのために、一方では、豊かな「文化力」「国際感覚」や「情報」への鋭い感性と高い技能、懐の深い知性を育む「教養教育」の充実に向けて新しい試みをスタートさせます。

もう一方では、大学生活のさまざまな場面を通じて、人と、あるいは集団や組織の中で活躍していくことのできる社会性豊かな幅広い人間性を培う新たな取り組みを始めます。

この新しい1年が、一段と飛躍した100周年への第一歩となるよう、教職員一同、一層の努力を重ねてまいります。皆さま方のご理解とお力添えをお願いいたします。

新年のご挨拶

樟蔭中学校・高等学校 校長

**藤川 保**



今年は学園にとりまして90周年に当たります。「2007年が、樟蔭学園にとりまして、飛躍の年になりますように!!」祈念しています。いよいよ中学・高校の19年度入試が始まります。入試説明会やオープンスクール等の生徒募集活動の成果を期待して、目標の定員確保が出来ればと思っています。現在は女子校の受難の時代だとと言われていますが、新年早々なので夢を語ります。大学全入元年と呼ばれる2007年でも、私立中学のランク付けは、進学実績という単一のスケールしかありません。そんな現状の中で、樟蔭学園が違う「物差し」を世の中に提供できないものでしょうか。私が考える「物差し」とは、樟蔭の中学校から高校そして大学の10年間をかけて大事に熟成させ、その人の人生のバックボーンとなりうる樟蔭ブランドに価値をおいた尺度です。確かに新しい尺度の導入は難しいですが、その進学実績に匹敵する価値あるものを、具体的に生み出す可能性のある会合として、中学・高校・大学の連携を考える協議会が昨年から数回開かれています。この会がきっと素晴らしい連携を企画・実行することで「価値あるなもの」を見つけてくれることを心から期待しています。

新年を迎えて

大阪樟蔭女子大学附属幼稚園 園長

**塙見 慎朗**



あけましておめでとうございます。

昨年より園長を兼任することになり、幼稚園では新しい経験の連続です。園児は歌にダンス、絵や工作と楽しく活動しています。

遊びをせんとや生まれけむ  
戯れせんとや生まれけむ

『梁塵秘抄(りょうじんひしょ)』(平安時代の歌謡集)では、元気に遊ぶ子どもの声を聞くと体が揺り動かされると歌っていますが、子どもは本当によく遊びます。子どもは幼稚園の豊かな環境で、友だちと一緒に遊び作業する中で、自然と集団のルールやマナーを体得し、生きる力を身に付けます。

幼稚園では先生の指導の下に、園児一人ひとりが主役となって活動し、自ら考え、勇気と耐性のある温かい心の人になってほしいと願っております。そのためにも体づくりが大切です。しかも園児が喜んで通う楽しい幼稚園でありたいと教職員一同思っております。

現代は早期教育ばかりですが、「この麦早く大きくなれ、と引張ったら千切れた」という話がありますように、幼児期は人間の土台づくりの時期であり、あせらず日々の地道な積み重ねが大切で、知性と豊かな情操をもった品格のある人を育てたいと願っています。皆様のご支援をよろしくお願ひいたします。

新年のご挨拶

樟蔭同窓会 会長

**網野 康子**



新年明けましておめでとうございます。

平成19年の新春を、皆様お健やかにお迎えになられたことお慶び申し上げます。今年も平穡で良き年でありますことを願っております。

さて平素は同窓会活動に何かとご支援、ご協力賜りまして厚くお礼申し上げます。お蔭様で同窓会の活動は、役員の皆様方のご尽力により順調に進ませて頂いております。

樟蔭学園におかれましては、今年創立90周年で長き歴史と伝統のある母校を寿ぎ、この節目を大切に思い、同窓会では記念行事として11月7日(水)に、ホテルニューオータニ大阪に於いて祝賀パーティーを開催することになりました。アトラクションとして、ヴァイオリンの高嶋ちさ子様の演奏会を予定しております。皆様のご協力をいただき成功させたいと役員一同願っております。詳しいことは3月発送の同窓会会報「みどり」でご案内いたします。お友達、そしてご家族の皆様方をおさぞいあわせの上ご参加くださいますようお願いいたします。

最後になりましたが、樟蔭学園のさらなる御発展を願い、新しい年が皆様にとって幸せいっぱいの一年になりますよう心から祈念申し上げます。





大阪樟蔭女子大学 学芸学部 助教授  
神戸親和女子大学文学部英文学科卒業。大阪大学大学院文学研究科博士後期課程文化表現論修了。博士(文学)  
1974年から2001年、大阪樟蔭女子大学衣料情報室にて、抄録索引誌「衣料情報レビュー」の刊行および服装・ファッション情報サービス活動に従事  
1979年より、国立民族学博物館にて〈服装・身装文化データベース〉、〈アクセサリー・身装文化データベース〉を構築・公開  
国立民族学博物館文化資源研究センター客員助教授

## データベースの構築から見えた近代日本の身装(身体と装い)文化 と美しいひと――

みなさんが図書館で目的の書物を探すとき、書名、著者名などで分類されたカードや目録を利用したことがあるでしょう。「情報」と聞くと、パソコンやインターネットを連想させますが、カードに記載された内容も「情報」なのです。これらの情報を蓄積し、コンピュータで検索できるようにしたものがデータベースといえます。膨大な量の資料をデータベース化するなかで、近代日本の女性を中心とした身装文化について研究する高橋晴子先生をお訪ねしました。

### 収集した膨大な資料を分析・整理し、キーワードで分類して提供。

現在、国立民族学博物館から公開されている〈服装・身装文化〉のデータベース作成を考えたのは、パリ(現フランス)国立図書館の豊かな身装関係の資料に触れた時からでした。当時は、「情報」という概念すら一般的ではありませんでしたから、説明するのにも苦労したことを覚えています。しかし、ちょうどダイアログの情報検索システムが日本に入ってきた頃で、いろいろな言葉(キーワード)をつかってデータベースを検索するおもしろさを体験できました。パリ国立図書館では、早くから蔵書を分類記号ではなく、キーワードで探せるようになっていましたから、データベース化の素地はできていたわけです。これらの体験が私の進むべき方向を教えてくれました。

データベース化の仕事は、資料・データの収集にはじまり、分析・整理し、分類記号やキーワードをつけ、コンピュータで検索できるようにするというのが一般的な流れです。私が現在、データベース化し、公開している文字と画像のデータは合計約17万件にのぼります。膨大な量になりますが、データベースはスケールメリットが大きく、客観性はデータの数によっても左右されます。



### 日本の近代文化・身装から美しい女性像を類型化。

データベースの研究を進めるなかで、私がとくに興味を持ったのが、日本の近代文化です。明治から昭和にかけては、和装と洋装が入り混じったダイナミックな時期にもかかわらず、この時期の研究が欠落しています。著書『近

代日本の身装文化』でも紹介していますが、「美しいひと」を身装の視点から見てみると、服装や髪形はもちろん、テキスタイル、デザイン、生活意識や社会的背景に至るまで、実にさまざまな要素が関係しています。その根底には、自らのアイデンティティを表現し、自分を魅力的に見せたいということがあるようです。しかし、

“きれい”的基準は人によってまちまちです。“形の美しさ”という主観的な概念をデータベース化することはできません。そこで、“美しいひと”という概念を客観的な文化概念に置き換えないか、と考えたわけです。

明治元年からの約100年の間に発行された服飾専門誌、女性誌、絵はがきなどに加え、評判小説や新聞に描かれた挿絵などの資料・文献を収集し、「お嬢様」「女優」「芸妓」「美人画」「モダンガール」など15のキーワードで類型化しています。これらの類型は、当



時の人々の生活から生まれた、また当時の人々が認めた“美しい”という文化概念です。新聞小説の挿絵は読者である市民の感情に最も近く、描かれた主人公の女性の“美しい”とされた顔の変化もはっきりと見てとることができます。たいていの主人公の女性は、“美しい人”に設定されていて、そのことが小説のテキストに明記されているのですから。明治の後半頃までは“引き目、鉤鼻、おちょぼ口”的浮世絵風の顔立ちです。日本人の心に、思いのほか長く“浮世絵美人”はしみわたっていましたのですね。以降は洋画などの影響から目のパッチリとした西洋風の顔立ちへと変わっていきます。また、明治30年代には女学校が増加し、女性にも知性と社会性が求められはじめた時期で、この流れが“断髪・洋装”に代表される“モダンガール”へつながっています。

また、近代の評判小説に登場するヒロインは、69冊の資料を分析したところ、その4割弱が上流階級の女性であり、3割弱が良家の娘でした。「上流社会=美しい」という文化概念をうかがい知ることができ、当時は上流階級の人々は、大衆にとって「アイドル」だったのです。近い将来、近代日本の身装をテーマとした画像データベースも公開したいと思っています。

### データベースは生き続っていくものだから、手をかけてやらないといけない。

現在、私が代表者となっているMCDプロジェクトでは、国立民族学博物館のホームページに、〈服装・身装文化〉や〈アクセサリー・身装文化〉など7つのデータベースを公開しています。これらのデータベースのデータ件数の合計が、さきほども言いましたように17万件です。

1日の平均アクセス数は、約100件。閲覧者の数が増えることは、データベースの質の向上にもなりますし、新たな資料が提供される機会にもつながる可能性があり、さらにデータベースを発展させていくことができます。データベースは、一度公開してしまえばおしまいというものではありません。常に流れ、新たな資料も見つかっていきます。そうした視点から見れば、完全なものはありません。日々新しいものに更新していく必要性は、インターネット上で展開されているブログと近いものがあります。手のかかる“かわいい子”ですが、研究としての適正な評価がまだなされていない分野で、後を継ぐ研究者が育成できないのが悩みです。でも、ミュージアムやアートを通して、大学などの教育機関でデータベースに関連する教育がだんだんと開かれるようにになり、これから若い研究者が育っていくのを楽しみにしています。



(国立民族学博物館 ホームページ)  
<http://www.minpaku.ac.jp>

大阪樟蔭女子大学で「図書館概論」「資料組織演習」「情報検索演習」などの科目を担当する傍ら、国立民族学博物館文化資源研究センターの客員助教授も務める高橋助教授。多忙なスケジュールの合間を縫って、資料の収集・分類、データベースの拡充を進めています。



2005年12月に三元社より出版された、高橋晴子先生の著書『近代日本の身装文化「身体と装い」の文化変容』。データベースの視点に立脚しながらも、近代社会・文化を軸とした身装の移り変わりをあきらかにするもので、身装学の可能性を拡大するものとも評されています。





## 打上順子

大阪府大阪市生まれ  
1993 大阪樟蔭女子大学英米文学科卒業  
日本テレビ(NTV)「NEWS ZERO」ナレーター

【これまでの経験】  
元・長崎文化放送アナウンサー  
TBS「きょう発プラス!」事件リポーター  
TBS「おはようグッディ」事件リポーター  
テレビ朝日「ワイドスクランブル」事件リポーター  
TBS「ジャスト」中継リポーター  
TBS「JNN報道スペシャル」「阪神大震災から10年～今そこにある危機」リポーター  
第17回東京国際映画祭 日本映画部門司会  
BSフジ「人生進化論」ナレーター  
ANB系列「原子力サイクル」キャスター  
テレビ朝日(ANB)「建設産業テレビ」キャスター  
テレビ神奈川(TVK)「東海道ルネッサンス」  
テレビ神奈川(TVK)「神奈川ウォーク」  
テレビ東京(TX)「ぜっぴんTV」リポーター  
長崎文化放送(NCC)「いい朝ncc」キャスター  
九州朝日放送(KBC)「うるとらマンボウ」リポーター  
テレビ朝日(ANB)「旅サラダ」「アタック25」リポーター  
官公庁・企業VP・番組ナレーション多数

### 中学・高校・大学の10年間を樟蔭カラーの中で過ごしたことが、現在の私の基盤になっています。

大阪樟蔭女子大学英米文学科を卒業後、長崎文化放送のアナウンサーとして活躍。同局を退社後、在京キー局の看板番組の事件リポーターとして、活動のフィールドを報道の現場に拡げている、フリーANAウンサー・打上(うちがみ)順子さん。現在は日本テレビ「NEWS ZERO」のナレーションをレギュラーで担当(月・水・金)。時々刻々と変わる状況のなか、1分、1秒を争うニュース番組制作の現場に、打上さんをお訪ねしました。



「アナウンサーになりたい。そう思ったのは、友人の母のひと言でした。『アナウンサーになるべき声』と言われたのです。じつは、当時の低い声質にコンプレックスを抱いていたのですが、認められて世界が一変し、それから一途にアナウンサーをめざしました」と高校1年のころを振り返る打上さん。それまでの夢は、幼いころから習っていたバレエの先生になることだったという。

約2000件の事件に携わった原動力は仕事への情熱と真相を伝えたい思い。

放送局のアナウンサーとして赴いたのは、知人のほんどない長崎。家族と離れる寂しさを思い起こさせないほど忙しさだった。「早朝から明け方までの勤務で、帰宅するのは着替えを取りに戻るときだけ。長崎文化放送で唯一の人気番組を担当しているながらも、自分が

スカスカになっていました」。そんな忙しい毎日に終止符を打ったのは3年が経過してからのこと。「心と体を休めたい」それが退職の理由だった。

「大阪の実家に戻った私待っていたのは、『なりたくなったのだから、辞めるにしても、日本で一番の東京で失敗してから帰ってきてなさい』という母の厳しい言葉でした」わずか数か月の休息の後、上京。テレビ朝日の情報番組『ワイドスクランブル』のリポーターとして、テレビ画面に再び登場することになる。

さらにTBSテレビのいくつかの情報番組で、通算10年間事件リポーターを務め、現在は日本テレビ『NEWS ZERO』のナレーターとして活躍されている。

「ここまでこられたのは運。アナウンサー、リポーターの仕事を13年続けられたのも運」と謙遜される打上さんは、機転が利くことから、中学・高校の先生方に『一筋縄ではないかない』と評されたほど、伸び伸びと楽しく過ごされたようです。

「大学では、勉強のほかに、アナウンススクールに通い、さらにバレエにアルバイトと、バブル最盛期なのに遊ぶ時間がないほど。でも、そんななかで言葉遣いや責任感、努力を継続することの大切さ、社会人としての立ち居振る舞いなどを勉強し、人間としての下地が形成された4年間でもありました。些細なことを気にすることなく、気さくに前向きに生きる“樟



映像の長さに合わせて、ナレーションを録音。伝える内容に応じて、声のトーンや原稿を読むスピード、間の取り方などを変えていきます。



内容を正確に、わかりやすく伝えるため、音読しながら原稿をチェック。傍らにあるのは、アクセント辞典。携帯用のほかに、自宅のテレビの横にも常備しているという。



本番開始直前まで、ナレーションとニュース映像の編集作業が続きます。ここで初めて、映像と音声が合わせられた状態をチェックする打上さん。

蔭カラー」を学べたことは、本当に良かったと思います。一般教養をもっとしっかりやっておけば、今さらながら思いますけどね」

今は仕事とバレエだけ。いやなことは何もない。『世界で一番お氣楽な35才』という打上さん。「毎日、結果を求めるのがこの世界。だから120%、200%の力を出して1つ1つの仕事をこなし、明日も、そして一生アナウンサーをやっていきたい、生まれ変わってもやりたいと思います。この声を重宝してくれる人がいる限り」と夢を語ってくださいました。モットーとしているのは「仕事もプライベートも今日やるべきことを明日に持ち越さないこと」そして「やりたいと思ったことに積極的にチャレンジし続けること」。こうした姿勢も、樟蔭で過ごした10年間で身についた素養。これからもニュースを伝える担い手、事件の真相を解き明かすリポーターとして、ますますのご活躍を願っています。



大学4回生の大学祭にて。学友とは現在も定期的に交流があり、打上さんが担当したニュースの放映が終わると、素直な意見・感想のメールが届くこともあるそうです。(左から3人目)

### 卒業生の方々のご活躍の様子をお知らせください。

樟蔭学園は今年で創立90周年を迎えます。日本全国、海外在住の卒業生もいらっしゃいます。様々な分野でご活躍されている卒業生の情報を寄せいただき、みなさまのお力を借りし、この「こもれびの窓」で幅広い卒業生の姿をお伝えしていきたいと思います。身近でご活躍の卒業生の様子を是非とも樟蔭学園法人本部企画広報室までお知らせくださいますよう、お願いいたします。●TEL 06-6723-8152●FAX 06-6723-8263